

木瀬川 三界萬霊等（法界さん）

昔、堤防に近い大古田本家の土地に「三界萬霊等と刻まれた石碑があって「法界さん」という名前で知られている。大古田文子氏の三代前の長平氏によって、黄瀬川で川流れて亡くなった人の霊をとむらうため、木瀬川側に流れついた人は木瀬川で対岸に流れついた人は清水町で供養したと昔からいらわれています。

最初は黄瀬川橋(旧道)の傍らに建てられたものであったが、戦後に川幅が広がって行き、あらたに堤防もできあがるにつれて、しだいに下流方に移されてゆき、現在の位置に落ち着いたものである。かつては、毎年八月十六日に今日では、

毎年八月三日午後4時から、その年度の当番町の世話で、この「法界さん」の供養として虫封じの意味をこめながら、特設の施餓鬼棚をもうけて、川施餓鬼の儀式をいとなんでいる。潮音寺の住職を中心、かつては念仏講の仲間が加わって大悲呪、世尊偈、回向文などをあげることで行われていたが。今日の川施餓鬼では、全集落の無縁仏の供養が行われた。



三界萬霊等



川施餓鬼風景

年月が経っているので読み取りにくいところがありますが、三界萬霊等西側に文化八年辛卯秋九月(1811 年)、東側には現嵩山 正宗寺 萬元中と読み取れます。